

■研究・実践の課題（テーマ）

コロナ禍後の子どもの学力低下の改善を図る方法の探究  
—すべての子どもにやる意欲を—

■主任研究者 安達内美子

■共同研究者 新谷裕

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

1、研究の目的

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、5類に移行してから2年余りが経過している。新型コロナに加えて、新たにインフルエンザやアデノウイルス等が猛威を振るい、一向に子どもの学力低下にこれといった措置がなされていないままである。特に問題なのが、特別支援を受けている子どもたちへの配慮があまりなされていないことである。特別支援を受けている子どもを専門的に入学させている特別支援学校が、定員オーバーのため、あぶれた子どもたちは地域にある学校の特別支援学級に入学しているケースが増加している。日進市の各学校の特別支援学級では多い学校で40名の子を受け入れている。愛知県ではこれに対して2027年4月の開校を目指し、名古屋市天白区と豊田市に2カ所に県立の特別支援学校（特支）を新設する計画である。そこで今回の研究では、特別支援学校に通う子どもの実態を調べるために以下の目的で研究を進めた。

- ① すべての子どもの学習意欲の向上を図るには、どのような方策が必要であるか。
- ② そのためには、自己教育力をどう生かしていけるか。
- ③ これを、理科の実験・観察を使って検証する。

2、調査期間及び対象者・調査方法

①期間：2023年から2024年の1年間

②対象：日進市少年少女発明クラブ：小学校4年生～6年生120人

障害児通所支援事業放課後等デイサービス：25人

愛知障害児教育研究会：事例17件

比較：湖西市（静岡）106人

③方法：日進市の発明クラブでは、質問紙「講座終了時のアンケート」及び講座観察を行った。

先生の質問は、「わかりやすかったですか。①わかりやすかった②難しかった」

「難しかったところを具体的に書いてください」

「講座の中で印象に残ったことを書いてください」

比較対象者については、指導者及び事務局担当者へのインタビューを行った。

障害児通所支援事業放課後等デイサービスにおいては、レクレーションの時間を使って理科の実験や、工作を実施した。たまたまデイサービスでは、保護者の面談に立ち合わせてもらえたので、障害児が学校で困っていることの一部を垣間見ることができた。

### 3、結果

そこで、日進市の発明クラブの評価について紹介しよう。講座終了時に受講者に対して発明クラブでは毎回「講座後アンケート調査」を取って、指導者「反省会のまとめ」とともに公表している。

講座後アンケート調査

(ア)先生の質問は、わかりやすかったですか。①わかりやすかった②難しかった

(イ)難しかったところを具体的に書いてください。

(ウ)講座の中で印象に残ったことを書いてください。アンケート調査結果 表 1

参照

実験の授業における障害児の観察の記録、及び保護者会の記録。

### 4、考察と今後の課題

自己教育力の究極の目的は、「学習意欲と意志の形成」「学習の仕方の習得」「生き方の探求」である。発明クラブに学ぶ子どもは、好きな理科に興味を持っており、学習意欲は非常に高い。アンケートにもみられるように多くの講座での「わかりやすかった」という結果からみても、子どもの学習に意欲的に取り組んでいることがうかがえる。最後まで諦めずに実験を行うという、強い意志も随所に見られる。更に感心したことは、実験をうまくやり切った子が、なかなかうまく結果が出せない子に対してアドバイスしている姿である。「三人寄れば文殊の知恵」の、「人が集まってそれぞれの知見を結集すれば、良い知恵が浮かび、解決策が生まれる」という考えが正にこのことをいうのではないだろうか。班の中の誰かが時によっては、教師の役を行い、互いに高め合っている。今回の研究テーマは「すべての子どもにやる意欲を」である。障害を持っている子は、各自の持つハンディキャップを乗り越えて自立していくという大きな目標を持っている。自己教育力の「生き方の探究」が学習指導要領の7章「自立活動」に相当する。6区分27項目の1つ1つを熟して、自立を目指して頑張っている。今後も、障害による学習上や生活上の困難を主体的に改善・克服ために必要な知識、技能、態度や習慣を養うための方策を考えていきたい。